



日常会話に見るコミュニケーションの秩序性

人文科学系・言語文化学領域

■研究キーワード 談話研究, 語用論, 会話分析, 語法研究, 指示表現, ストーリー・テリング

■主な所属学会 日本語用論学会/社会言語科学会/英語語法文法学会/関西言語学会/会話分析研究会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.b46038e90adaeabf520e17560c007669.html>



Nara Women's University



研究者総覧

研究概要

日常会話の実事例を観察し、会話のことば遣いや行動の記述を通して、円滑な意思伝達を支える会話の秩序性について考察しています。

特に以下のトピックに注目しています。

1. ことば(特に指示表現)の選択について:

話者は人や物をどのように表現するのか、それはなぜか。

2. 交渉と修復現象について:

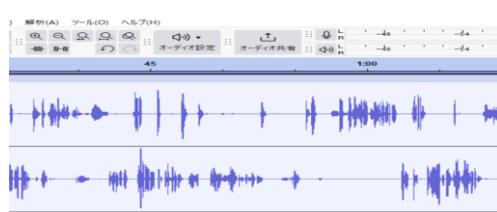
会話者はお互いにどのように折り合いをつけて会話を進めているのか。

3. 物語り(ストーリー・テリング)について:

話者は自分の経験をどのように聞き手に語って聞かせるのか。



会話場面の観察



音声の観察

20 C: ((→B)) [で::::] 21 B: [サラダとか]作る.
22 C: ((→B))あ うん 切ったあるから:
23 B: ° ふう::::[:n°] ((小刻みにうなづいて
24 C: ((→B)) [朝(.)>店長が切ってくれるから:
25 いくねん<けど:
26 B: ((うなづき))
27 → C: ((→下))なんか:(.)<うちの↑上:>(.)で:
28 [いとって::::]
29 B: [((2回うなづき))] 30 C: ((→下))で その人とあたし二人で:
31 (0.8)
32 C: み((→B))せ

会話の書記化

アピールポイント

会話場面を詳細に観察する「会話分析」の手法を用いて、話のことば遣いだけでなく、声の大きさ、話すスピード、音の高低、間合い、言いよどみ、会話者の視線やジェスチャー等も含めて、会話の中で起こっている現象を観察しています。普段の何気ない会話でも、改めて観察すると、秩序性が存在することに気づきます。

1. 話者は言及する対象を聞き手に正確に伝えるためだけでなく、聞き手に発話内容の理解を促すためや、対象に対する話者の感情を伝達し、聞き手から共感を得るために指示表現が選択される側面があるということが明らかになってきました。

2. 進行中の会話の中で生じる様々な問題に対処するための交渉や修復の現象を観察することによって、会話者が無意識のうちに従っている規範とは何かを明らかにすることができます。

3. ストーリー・テリングの事例から、語り手は出来事を劇的に語るために、描写のきめ細かさを調整していることが見て取れます。これは、動作や振る舞いの叙述だけでなく、人や物を表すきめ細かさの度合いを調整することによって行われるということが分かってきました。

*英語の会話をもとに提案された「会話分析」の手法が日本語の分析にも有用であることが検証される一方、日本語と英語に見られる共通点や相異点については今後詳しく調べていきたいと考えています。

*日常会話の分析をもとに、さらに会話者の属性や会話場面の異なる様々な社会的文脈における会話の分析への応用が期待できます。